

R6決算認定を議決。決算特別委員長の職責を全う。

今年は5月以降、決算特別委員会の委員長を拝命し、委員会審査を通じて決算認定に尽力しました。「決算認定」とは、議会が1年間の決算内容を確認し、確定することです。法律に適合しているか、計算は正しいか、使われ方は適正かなどを審査するだけでなく、過去の財政状況と比較して問題点を指摘し、将来に反映させるなど、大切な役割があります。自民党から共産党まで全会派から委員が選出され、県政に係る全ての支出について、約7カ月に渡って議論します。審査する内容のボリュームも多く、毎回、多様な質問・意見が出されるため、意見集約は大変でしたが、令和6年度の「企業会計」「一般会計・特別会計」それぞれの決算認定を全会一致または賛成多数で議決することができました。委員の皆様や執行部のご協力、事務局のお支えにより何とか大役を果たすことができホッとしています。自分自身も大いに勉強になり、委員相互の信頼関係も深まった、中身の濃い委員会活動でした。



11月定例会で委員長報告

高校生議会を開催！

県では、次代を担う高校生に、県政や県議会への理解と关心を高めてもらうとともに、様々な意見を今後の県議会での議論の参考とするため、毎年「岡山県高校生議会」を開催しています。7回目となる今年は、12月15日に開催され、参加申し込みのあった18校から議員役の高校生70人が質問を行い、私も答弁を行う「執行部」役の一員として質疑応答に参加しました。

高校生議員からは、自転車の交通安全や不登校問題など、自分たちの日常や経験に根差した質問もあれば、中山間地域対策、気候変動対策など骨太な社会課題を取り上げる学校もあり、政策領域は多岐に渡りました。各校の質問は、本当によく練られていて、特大パネルを用意して論戦に臨む学校もあるなど、事前にしっかり準備してきたことが伺えました。他方、再質問を行う学校は少なく、執行部役の県議会議員がタジタジになるシーンがあり見られなかったのは残念でした。多くの人に注目される中で発言をす



るのは緊張したと思いますが、皆さん堂々とされていて、立派に役割を果たしていました。生徒さんたちはもちろん、ご指導にあたった先生方をはじめ各校の関係者の皆さんに心より敬意を表します。

【今年の参加校（18校）】

県立岡山芳泉高等学校	県立玉野高等学校	岡山市立岡山後楽館高等学校
県立岡山東商業高等学校	県立井原高等学校	創志学園高等学校
県立倉敷青陵高等学校	県立高梁高等学校	岡山理科大学附属高等学校
県立倉敷南高等学校	県立林野高等学校	金光学園高等学校
県立倉敷古城池高等学校	県立鴨方高等学校	専修学校自由高等学院
県立津山東高等学校	県立和気閑谷高等学校	中国デザイン専門学校



岡山県議会議員 高橋とおる

県政レポート Vol.52



発行:高橋とおる事務所 発行日:2026年1月5日
〒703-8271 岡山市中区円山118 サンライズビル201
TEL (086) 238-7775, FAX (086) 238-7785

WEBページ

facebook



ご挨拶

新年明けましておめでとうございます。いつも大変お世話になっています。お蔭様で、昨年は県議会議員10年という節目を迎えることができました。この間、1年生議員だった私が、今、所属会派で幹事長を務め、自民党が絶対多数を占める議会構成の中にあって決算特別委員会の委員長に任命されるなど、一定の役割を果たせるようになりました。国民民主党の岡山県連幹事長、連合岡山組織内議

員団長という立場も含め、岡山県内において働く者、納税者、生活者の立場に立った政治を、私自身が全力で進めていくことはもちろん、同志とともにチームで成果を上げるリーダーシップも期待されていると感じています。今年も、県民の皆様、地域の皆様の声を聴きながら、一つでも二つでも、地域の課題が解決されるよう尽力して参ります。変わらぬご支援、ご指導をよろしくお願ひ致します。

岡山県議会 11月定例会・代表質問 報告

11月定例会では、会派「民主・県民クラブ」を代表して質問に立ちました。紙面では、質問15項目のうち主な5つの質疑応答をご紹介致します。当日の質疑は右記QRコードのリンク先から動画を視聴することができます。

質問1. 新サッカースタジアムについて

現状・課題意識

ファジアーノ岡山のJ1昇格により、ホームゲームの観戦チケットは即完売が続き、多くの県民が観戦できない状況だ。一方、新スタジアム建設を求める署名は50万筆を超え、期待が高まっている。ただし、建設費は200億円規模とされ、公費投入や維持管理のあり方についても慎重な検討が求められる。県民が納得できる施設とするには、多目的利用、財源、立地、運営方法など多角的な議論が必要。

質問

新スタジアム建設について具体的な検討に着手すべきではないか。県・市町村・クラブ・経済界・県民が一体となった協議体を設け、財政・立地・運営の在り方等を総合的に検討する議論の場づくりが必要と考えるが、知事の所見を伺う。



現スタジアム「JFE晴れの国スタジアム」

知事の答弁

県民の期待の高まりを受け、真剣に検討を進める必要があると認識している。今後、多角的な視点で様々な資料の収集、調査、分析や、お話しの協議体の設置を見据えた、幅広い関係者との協議を進めていきたい。

岡山県の伊原木隆太知事は2日、サッカーリーグ「ファジアーノ岡山」やサポーター有志が求めているサッカースタジアムについて、「懇意に相談して、多くの事項があることから、協議体の設置も見据えた幅広い関係者との協議を始めた」と述べ、県が関与して議論を本格化させる意向を表明した。11月定例会議論の答弁で述べた。県によると関係者はチームや地元経済界などを想定しているという。

新スタジアム議論本格化 県議会 岡山知事が意向表明

【高橋とおるはこう考える】 新サッカースタジアムについて、知事から、県が関与して議論を本格化させる姿勢が初めて明確に示されました。50万筆超の署名に加え、この日、代表質問に立った3会派すべてがスタジアム関連の質問を行ったことを受け、議会後の取材で、知事は、「県民と県議会が前向きになってきたと感じ、今回の答弁につながつ

た」と説明しています。一方で、県が主導的に関わるかどうかについては「まだ決まっていない」とも述べています。多額の税金が投入される可能性があるだけに、ムードに流されない慎重さは理解できます。私が提案した協議体の設置など含め、まずは議論の場づくりが進みそうです。個人的には、一歩前進と受け止めています。

翌朝の山陽新聞でも報道されました。

